

「桂桜カフェ」街を元気に 大館で11、18日に予約制

生徒が料理の腕振るう



試作を重ねて完成した料理を囲む生徒

大館桂桜高校の生活科学科家庭クラブの2年生11人が料理の腕を振るう「桂桜カフェ」が今月11、18日の2日間、大館市宇大町のコーキングスペース「マルワ ニコマ」に開店する。中心商店街を活性化しようとする学校が企画した。地元産の食材をふんだんに使ったメニューを提供する。

11日はランチ、18日は喫茶の日。ランチは新型コロナウイルスの影響で販売が低迷している比内地鶏を使ったオムライスをメインにクラタンと野菜たっぷりのスープ、ロールケーキを付けて1食650円。限定40食。

喫茶の日にはブルーベリーを使ったケーキとモンブランに、同校の前身校の一つ、旧大館桂桜高校敷地の梅の木に付いた実を使った梅寒天を提供する。コーヒー付きで500円。限定40食。

メニューは、生徒たちが何度もアイデアを出し合って決め、11月20日に試作を行って完成させた。ランチを担当した奈良春花さんは「大館産の材料にこだわり、クリスマスにふさわしい料理として作った。地元食材のおいしさも楽しんでほしい」と話した。

桂桜カフェは、生徒への実践的な学習の場の提供と地域活性化を目的に昨年からはじめ

た。西日も午前10時半開店。11日は午後2時50分、18日は2時45分開店。予約制でチケットは2日分販売する。問い合わせは大館桂桜高の今川

浩子、木村朋子両教諭 ☎0186・59・6299（平日午前9時～午後4時半）
（千葉勉）